

2024年10月吉日

会員各位

日本地域経済学会事務局

日本地域経済学会 第36回 大阪大会：全国大会案内（会報第二報）

本年の全国大会（大阪大会）は、下記のとおり、大阪公立大学杉本キャンパスにおいて対面開催します。例年通り、地域公開シンポジウム、共通論題シンポジウム、自由論題報告、懇親会、総会などを予定しています。また、大会前日には、日本中小企業学会との共催シンポジウムを企画しております。

ここでは現段階で決定している内容についてご案内します。

大会参加の申し込み方法やプログラム等の確定版は決まり次第、続報にてお知らせします。

■ 第36回大阪大会の概要

日程：2024年12月6日（金）～8日（日）

12月6日（金） 日本中小企業学会との共催シンポジウム（オンライン）

12月7日（土） 地域公開シンポジウム、総会、懇親会

12月8日（日） 自由論題報告、企画セッション

共通論題シンポジウム「子ども・若者政策と地域経済社会」

自由論題賞授賞式、閉会挨拶

大会開催校：大阪公立大学

大会実行委員会 委員長：除本 理史（大阪公立大学）

委員：大貝健二（北海学園大学）・栗田但馬（立命館大学）・立見淳哉（大阪公立大学）・松永桂子（大阪公立大学）

大会実行委員会（現地問い合わせ先）：大阪公立大学経営学研究科 除本理史

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 E-Mail: yokemoto★omu.ac.jp

★を@に変更ください

学会事務局：駒澤大学（長山宗広・松本典子・大前智文） E-Mail: chiikikeizai60@gmail.com

*) 大会1週間前の11月29日（金）18:00～Zoom オンラインにて、理事会を予定しています。

12月6日（金）

■ 日本地域経済学会と日本中小企業学会との共催シンポジウム

18:00～20:00 会場：オンライン（ZOOM）

テーマ：スタートアップ・エコシステムの地方都市モデル構築に向けてー理論・実態・政策面からの検討
企画趣旨：

国は、2022年に「スタートアップ創出元年」を宣言し、トップダウンでスタートアップ政策を強かに押し進めている。同年、「スタートアップ育成5か年計画」を策定し、「5年後の2027年にスタートアップへの投資額を10倍にすること」「ユニコーン企業を100社創出し、スタートアップを10万社創出すること」により、日本が世界有数のスタートアップの集積地になることを目標に掲げた。こうした「スタートアップ・ブーム」は、VC等投資家や大学・高度人材が集積する東京において発火される。これは「地方創生」に逆行

し、結果的には、スタートアップ政策が東京一極集中化をより一層進めてしまうことになりかねない。

スタートアップを持続的に創出するには、そのための制度的な厚みと起業家コミュニティ等の形成が鍵を握る。海外では、シリコンバレーを筆頭に、北京、上海等の大都市でスタートアップ・エコシステムの拠点形成が進展しているが、フィンランド・オウルのような地方でのスタートアップ・エコシステムの事例もある。日本においても、「スタートアップ・エコシステム拠点都市」の形成に向けて、東京コンソーシアムのほか、愛知・名古屋・浜松コンソ、大阪・京都・兵庫神戸コンソ、福岡の4拠点をグローバル型、そして、札幌、仙台、広島、北九州の4拠点を推進都市型として支援策が講じられている。とはいえ、東京以外の地方都市においてスタートアップ・エコシステムを形成することの難しさは、2000年代の「産業クラスター政策」の失敗を省みれば容易に想像できるだろう。

日本のスタートアップ・エコシステム支援策の理論的な根拠の一つは、「EE (Entrepreneurial Ecosystem) 論」である。しかしながら、EEの実証研究は日本であまり進んでおらず、また先行研究の多くは産業クラスターの構成要素を今更持ち出し、その要素の存在だけでEEの説明にかえるものが多い。研究上および実務上、重要なことは、EEがどのように形成されるのかのプロセスの解明にある。

以上を踏まえ、今回のシンポジウムでは、研究者のみならず現場の政策担当者にも登壇してもらい、スタートアップ・エコシステムの地方都市モデル構築に向けて、理論-実態-政策までの総合的な観点から議論を行い、多くの含意を得ることを目指す。

○司会進行・企画趣旨説明

：長山宗広（駒澤大学 教授）

○報告者・パネリスト

：遠藤聡（横浜国立大学 准教授）

：福島路（東北大学 教授）

：宮野浩和（浜松市産業部スタートアップ推進課）

：白川裕也（仙台市経済局イノベーション推進部スタートアップ支援課）

12月7日（土）

■ 地域公開シンポジウム

13：00～16：00 会場： 1号館128教室

テーマ：大阪地域の産業集積、町工場のアップデート

企画趣旨：

大阪市を含む東部大阪地域は、大都市型産業集積を形成し、モノづくりの町として知られている。例えば、東大阪市では、「歯ブラシから人工衛星まで」といったキャッチフレーズにもあるように、自動車や家電製品の部品製造から、伸線、鋌螺、皮革製品、歯ブラシ、家具製品といった地場産業製品まで、実に多様な製品の製造や加工を手掛けている。そのため、これまでに多くの調査研究が行われてきた地域でもある。

経済のグローバル化の進展は、産業集積地に大きなインパクトをもたらしてきた。産業集積の縮小、住工混在問題の深刻化に加え、近年では担い手である中小企業の高齢化、後継者不足、労働力不足にも対応を迫られている。他方で、地域社会において中小企業が果たしている役割にも注目が当たるなか、町工場、モノづくりの魅力を発信するオープンファクトリーや、職業観の醸成を企図した企業と自治体等が連携した取り組みも増えている。本シンポジウムでは、多様なものづくり地域としての大阪にスポットを当て、現代の産業集積やモノづくり中小企業の魅力や可能性を再確認する時間にしてみたい。

○ファシリテーター

：大貝健二（北海学園大学）

○登壇者

：桑野博行氏（大阪商業大学 教授）

：本多哲夫氏（大阪公立大学 教授）、劇団カオスによる朗読劇

：浦塘弘太郎氏（東大阪市都市魅力産業スポーツ部モノづくり支援室次長）

：東大阪地域の中小企業経営者（※打診中）

■ 総会 12月7日（土）16:15～17:30 会場： 1号館 128 教室

■ 懇親会 12月7日（土）18:00～20:00 会場：めたせこいあ

大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪公立大学 田中記念館

会費 5,000 円 *）当日現地支払いです。お釣りのないようにご協力ください。

<事前申し込み（11月24日（日）まで）※必須>

<https://forms.gle/Z8iCgRMeutjrjjiB8>

人数を把握する必要があるため、参加希望者は必ずフォームにご入力ください

12月8日（日）

■ 自由論題報告、企画セッション 9:00～12:30 会場： 1号館 125,126,127 教室

自由論題報告 第1分科会 会場： 1号館 125 教室 テーマ：産業集積・商業集積と企業行動 座長：豊福裕二（三重大学）	自由論題報告 第2分科会 会場： 1号館 126 教室 テーマ：地域の環境と経済の分析 座長：小山大介（京都橋大学）	企画セッション 会場： 1号館 127 教室 テーマ：「地域の価値」論の発展に向けて ファシリテーター・趣旨説明： 除本理史（大阪公立大学）
第1報告 報告者：松本正義（名古屋外国語大学） 報告タイトル：産業集積地の資金と情報の循環について－尾州地域の繊維産業を事例として	第1報告 報告者：藤本晴久（鳥根大学／横浜国立大学）・池島祥文（横浜国立大学）・大貝健二（北海学園大学） 報告タイトル：地域におけるサーキュラーエコノミーの可能性－資源循環型企業の取引構造とその類型化	第1報告 報告者：横田宏樹（静岡大学） 報告タイトル：地域の木の価値づけを通じた家具産地社会の再構成 第2報告 報告者：岩本洋一（久留米大学） 報告タイトル：地域の持続的発展と真正性の装置としての映画館
第2報告 報告者：中島章子（駒澤大学） 報告タイトル：都市型集積拡張の可能性－東京都墨田区におけるスタートアップの行動履歴から	第2報告 報告者：池島祥文（横浜国立大学）・清水翼（横浜国立大学（院生）） 報告タイトル：農産物購入における環境負荷の可視化	コメント：長尾謙吉（専修大学）
第3報告 報告者：福井雅之（関西大学（院生）） 報告タイトル：商業集積の発展サイクルと衰退サイクル	第3報告 報告者：大平佳男（帝京大学） 報告タイトル：日本における太陽光パネルのリサイクル・システムの構築に関する分析	総括的リブライ：佐無田光（金沢大学）
第4報告 報告者：西田陽子（明治大学（院生）） 報告タイトル：立地的制約を克服する地域企業の行動と地域社会への影響に関する考察	第4報告 報告者：王軼琛（横浜国立大学）・池島祥文（横浜国立大学） 報告タイトル：ネットワーク分析に基づく地域間イノベーション協力の解析	

<p>第5報告 報告者：倪舟（鳥根大学） 報告タイトル：アニメなどのコンテンツの活用と地域経済について－ガンダムマンホールプロジェクトなどの事例－</p>	<p>第5報告 報告者：岩松義秀（京都府立大学） 報告タイトル：精緻化した動態的内発的発展論による地域経済分析－関西文化学術研究都市を事例として</p>	
<p>_____</p>	<p>第6報告 報告者：江成穰（広島経済大学） 報告タイトル：都道府県経済に対する公的資金の影響－2015年都道府県産業連関表の分析から</p>	

＊）自由論題の1つの報告の持ち時間は35分。報告は25分、質疑応答（入れ替え時間含む）は10分。

■ 共通論題シンポジウム 13:30～16:30 会場： 1号館128教室

テーマ：子ども・若者政策と地域経済社会

企画趣旨：

2023年4月、「こどもまんなか社会の実現」を掲げた岸田前政権の下で、こども家庭庁が発足し、こども基本法が施行された。このような一連の政策の背景には、加速化する少子化をはじめ、子どもの貧困、児童虐待、いじめ、子どもの低いウェルビーイング、さらには親の子育てや教育に関する経済的負担の増大等々、子ども、若者、子育て当事者を巡る様々な深刻な問題がある。これらの諸問題を解決するため、「こどもが健やかで安全・安心に成長できる環境の提供」や「結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会の実現」、「成育環境にかかわらず誰一人取り残すことなく健やかな成長を保障」するための各種施策が掲げられるようになった。だが、同政権での「異次元の少子化対策」のかけ声とは裏腹に、若い世代の働き方・くらし・ジェンダー格差等への問題意識の希薄さや、晩婚化・未婚化対策の欠如、限られた予算配分等、様々な批判が投げかけられている。

このような状況に対して、地域レベルでは、人口減少や地域格差の下で経済・財政悪化と子ども・若者問題の同時進行に直面しており、複合的な課題への対策が目下迫られている。と同時に、「若者議会」や「協働まちづくり」に象徴されるように、若者ならではの感性や行動力を活かした地域づくりを通じてシビック・プライドの醸成を図ろうとする等、当事者としての若者を主体とする先進的な支援策を進める自治体も登場するようになってきている。このことは、地域において課題の深刻さをより真摯に受け止め、本質的な課題克服のために現場感覚で危機意識をもって取り組んでいることの証左でもあるといえよう。

次代を担う子ども・若者に対する支援を強化していくこと、そして子ども・若者が夢や希望を持てる持続可能社会を創造していくことは、今を生きる私達が果たすべき重要な責務である。その意味で、地域の最前線から日本社会の問題を捉え直し、国の政策的方向性や社会意識・価値観の刷新を議論することは、ますます重要であると思われる。

そこで、本年度のシンポジウムでは、「子ども・若者政策と地域経済社会」をテーマに設定し、日本地域経済学会らしい議論を展開したいと考えている。今回は、女性・家族の労働・生活問題や少子化・子育て政策について精力的に発言されている蓑輪明子氏と、前新城市長として日本初の「若者議会」の創設等を軸に独創的な政策を推進してこられた穂積亮次氏のお二人をお招きした上で、会員2名を加えた計4名のパネリストの報告を基に、当日は議論を深めていくこととしたい。

○コーディネーター

：菊地 裕幸（愛知大学）・岩佐 和幸（高知大学）

○パネリスト

：蓑輪明子（名城大学）「現代家族の働き方・生活の現状と少子化・子育て政策の課題」

- ：穂積亮次（前新城市長）「若者政策が日本の未来を変える—愛知県新城市の事例から」
- ：宇都宮千穂（高知県立大学）「高知県安芸市における保育所移転統合について」（仮）
- ：菊本舞（岐阜協立大学）「NPOによる子ども・若者支援の現状と課題—『ぎふハチドリ基金』を事例として—」（仮）

■ **自由論題賞の授賞式** 12月8日（日）16:30～16:40 会場： 1号館128教室
奨励賞選考委員会委員長 初澤敏生（福島大学）

■ **開催校挨拶、閉会**
大会実行委員会委員長 除本理史（大阪公立大学）

■ **大会会場・交通アクセス、会場案内**

【大会会場】 大阪公立大学 杉本キャンパス1号館
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

【懇親会会場】 田中記念館内「めたせこいあ」

【交通アクセス】 <https://www.omu.ac.jp/about/campus/sugimoto/> を参照

JR 阪和線「杉本町(大阪市立大学前)駅」下車、東口すぐ

Osaka Metro 御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約15分

新大阪から・・・JRもしくはOsaka Metro 御堂筋線、約1時間

関西国際空港から・・・JR 関空快速（堺市駅で各停に乗換）、約1時間

【大会会場・懇親会の地図】



<会場利用上の留意点>

- ・昼食について：学内の生協食堂などは土・日は閉まっています。図書館（地図 11 番）1F「野のはなハウス」が土曜のみ営業。杉本町駅周辺にコンビニは複数あります。
- ・宿泊について：大学周辺に宿泊施設はほとんどありません。近隣の駅（長居、天王寺など）周辺でお探してください。